

普及活動検討会実施報告書

美里農業改良普及センター
実施月日：令和3年2月3日
実施場所：美里農業改良普及センター会議室

1 検討内容

No	検討項目
1	地域農業の維持・発展に向けて法人化した集落営農組織の経営安定化 地域の特色を活かした「吟のいろは」の産地化の実現 持続的な生産に向けたこねぎ栽培技術の向上 令和3年度普及指導計画について
2	
3	

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者		生活者	
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
課題No. 1 地域農業の維持・発展に向けて法人化した集落営農組織の経営安定化	4.6	<ul style="list-style-type: none"> 決して面積の大きい法人ではないので、まずは、収入増のための作物，栽培等の指導に期待したい。 高齢化や担い手不足，資材や人件費の高騰がある中，このような省力化しながら高収益を上げる手法の確立はとても良いモデルケースだと思う。是非，他の農家や作物でも試してみたい。 複数の作物を競合しないように組み合わせているのは参考になった。 にんじんの作業時間を確保するために，大豆の栽培方法を地域の慣行と異なる方法で栽培するのは勇気のいる事だと思う。 高収益化を目指し，大豆の作業等の労働削減の技術は，効果的だと思います。法人間連携は素晴らしく，更なる拡大を他地域でも進められると思う。 経営所得安定対策を背景とした集落営農組織の法人化は，大規模な経営体から小規模な経営体まで実に様々である。こうした中，比較的小規模な組織を対象に実施された今回のプロジェクトは，作業の省力 	<ul style="list-style-type: none"> 作物の安定生産および農地の効率的な活用に向けて，フォローアップに努めてまいります。 経営規模や導入品目に適した省力技術の導入について御提案できるよう努めてまいります。 大豆は，栽培技術や作付品種等により，生産の自由度に多少の幅があるため，明確な経営計画があればアレンジした栽培が可能です。各経営体の中で柔軟な活用が図られるよう支援してまいります。 関係機関と協調しながら，管内の法人の動向を注視し連携のあり方について検討してまいります。 水田転作における大豆との作業競合の解消および園芸品目の導入拡大に向けて，本プロジェクトで得られた成果をベースとして，水平展開を図っていきます。

		<p>化と平準化に大きな効果もたらし、また、法人組織の連携という新たな推進体制も創出されたことは大きく評価される。引き続き、本成果の普及啓発に努められたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タカギ農産は、経営面積は小さいが、収益性の高い転作作物を主体として経営の確立を目指したものが、収量、売上額とも目標達成見込となり、素晴らしい成果だと思う。今後は、地域内の法人間連携等によるさらなる発展を期待する。 ・園芸作物を主体とした経営の場合、労働力の確保が課題となるが、省力化技術導入による作業時間の分散、さらに省力化した作物の収量面、ともに良い成果が出ており、今後の作物・経営規模拡大において有効な成果であると思う。一方、当管内においては水田における地力低下が課題となっており、省力化技術（カットドレーン）によりさらに地力低下が懸念される。有機物の投入・土づくりと組合わせた取組みが必要だと感じた。また、法人（生産者）間連携は契約栽培や産地形成において需要であることから、モデルとなる取組みだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も対象地域の法人間連携による共同作業、リレー出荷等の取り組みの拡大を支援してまいります。 ・御指摘のとおり、地力の低下は重要な課題と認識しております。本年度につきましては、堆肥の施用試験やBB肥料による肥効の適正化に取り組んでおり、また、今年度導入した大麦の麦稈すき込み等とあわせて地力の維持を図っていきます。
<p>課題No. 2 地域の特色を活かした「吟のいろは」の産地化の実現</p>	<p>4. 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主食米がだぶつく中、高収益をもたらす可能性のある米として、大変興味深い。栽培技術の向上+販路拡大を合わせて期待したい。 ・特等が出ているのは素晴らしいと思う。今後、契約先を増やして栽培面積の拡大や優良品種への引き上げにつながるよう継続できればと思う。 ・やはりこの品種を広めたいならば、優良品種にしてPRすべきなのでは。 ・県のやる気がもう一つと思った。新品種であれば、酒蔵、農家のためにも、県の主管をはっきりして、関係機関一体で盛り上げられるよう取り組むべきと思う。栽培指導はいいと思う。 ・おいしい米とおいしい水、そして、おいしい酒。非常に魅力的なプロジェクトである。一方で、産地化を図っていく上では、商品醸成や販売戦略など、「出口」を意識した取組が一層重要となる。大崎管内には10の酒蔵が点在しており、大崎地域1 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理技術確立に向け、研究会員の方々、JA新みやぎみどりの地区本部と連携し、今年度収集したデータを基に目標収量構成要素を修正し、検証を行うなど、継続して支援して参ります。 ・実需者、県関係機関とさらなる連携を図り、優良品種への引き上げを含めて、生産者、実需者両者が安心して取り組めるよう支援して参りたいと思います。 ・酒米の販売については、ほぼ全量が県酒造組合を通じた蔵元との契約栽培となっているため、蔵元が求める酒造りに適した原料米を作れるよう支援して参ります。農業者のアプローチとしては、売れる商品作りに向けた原料供給が主体となりますが、蔵元や関係部署とのビジョン

		<p>市4町が取り組む「世界農業遺産」の関連事業では、今後、日本酒のブランド認証制度の構築を計画している。生産振興と併せアフターコロナを見据えたブランド戦略についても並行して取り組まれることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 酒米の新品種である「吟のいろは」は、栽培技術が確立されていなかったが、活動の成果として栽培技術の確立がだいぶ進んだようである。今後は、作付面積を拡大させブランド化を図れるよう期待する。 ・ 国内の醸造用玄米は、山田錦が全体の約1/3を占めている。一部宮城県でも作付けされているが、栽培が難しい品種であることから、「蔵の華」が奨励品種になり、一定の作付面積を有している。「蔵の華」は醸造用玄米としては「心白が発現しにくい」品種であり、酒造メーカーからは「きれいな心白が発現」する山田錦の需要量が高い状況である。そのような状況を踏まえ、課題のデータから「吟のいろは」は「心白の発現率が高い品種」であり、さらに農産物検査でも「特等」の格付けがされており、酒造用玄米として極めて有望であると感じた。今後、酒造メーカー等での加工適性や品質評価に期待したい。 	<p>共有を図り、販売戦略やブランド戦略にもつなげられればと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積の拡大及び産地化の実現に向け、実需者や関係機関との意見交換を継続して参ります。 ・ 県産業技術総合センターからは、令和2年産「吟のいろは」は、令和元年産と比べて粗タンパク等の数値が安定し、良い方向にばらつきが少なくなったと一定の評価をいただいております。今後も醸造適正に優れた良質な酒米の供給に向け、支援して参ります。
<p>課題No. 3 持続的な生産に向けたこねぎ栽培技術の向上</p>	<p>4. 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業においては勤に頼る部分が高産業よりも強いように感じる。データ化による品質・収量の安定に期待したい。 ・ 持続させるための「技術の見える化」は重要だと思う。スマート技術も活用しながら、若い方々への支援にもなるよう、今後も継続が必要と思う。他作物にも応用できると思った。 ・ 調査結果の分析や栽培技術の数値化を丁寧に実施されたことにより、取り組むべき課題がより明確化した。今後、栽培技術の「見える化」を推進するためには、今回の「可視化」された情報をもとに作業レベルの「カイゼン」が促される仕組みづくりが必要となる。AI, IoTなどスマート農業導入なども是非検討されたい。 ・ 取り組みやすい技術で栽培管理の改善ができていて、取り入れやすいのがいいと思う。この技術で収穫量が上がっても天候によって影響されるともったいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、部会員の方々、JA新みやぎみどりの地区本部と連携し「栽培技術の見える化」の取り組みを継続します。スマート農業技術導入等については、現状を踏まえながら部会と検討して参ります。

		<p>いので、天候リスクにも対応できるとなお良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こねぎを1作無駄にしてまで他の作物を作ったり、緑肥を栽培して土壌改善を行うのは興味深かった。 ・小ねぎ部会は、本課題で取り組んでいるとおおり、連作障害（萎ちょう病）の克服が大きな問題となっている。報告であった灌水量の調整や深耕については、基本的な技術の励行が改めて重要であると思った。今後も調査や試験等の繰り返し、そして技術の組み合わせ等、根気が必要な作業の連続だと思うが、引き続きよろしく願います。 ・「栽培技術の見える化」による安定生産技術向上を目指したもののだが、重要な水管理、土づくりの状況が見える化したことにより、他の農家の方が参考にすることができると思う。後継者の育成にも大いに役立てられると考えられる。今後は、販売数量の増加を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収量向上のためには、適切なかん水確保のほか、萎凋病対策、土壌物理性の改善等生産者毎に課題が異なることが明らかになりました。現地活動を通じて、生産者が自らチェック、改善に結びつく取り組みの提案を進めて参ります。 ・本課題の取り組みにより、さらに後継者育成や販売数量向上へつながるよう進めて参ります。
<p>令和3年度普及指導計画について</p>	<p>4. 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域の企業的園芸法人として有名な法人がいつも数社名前があがるが、次に続く法人の育成にもっと力を入れていただきたい。 ・加速度的に人口が減少する中、持続的な地域農業の展開には担い手の確保が最重要課題であり、とりわけ、地域の農地の受け皿としても期待できる法人経営体の確保が期待される。これまでのノウハウをいかし、自主自立的な経営体の育成に努められたい。 ・おさとファームが設立早期ということで不安のある中、経営、技術指導は良い課題設定と思う。法人の求めるものを聞きながら行うことでやる気も引き出せると思う。 ・地元の農事組合法人おさとファームは、令和元年に設立したばかりで、計画的な法人運営がまだまだの状況のようである。今後の経営管理支援、技術支援等をよろしく願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規模拡大意向のある法人に対し、先進技術の導入及び経営管理支援、補助事業の導入による施設整備を進めてまいります。 ・令和3年度は地域農業の担い手育成としてプロジェクト課題で農事組合法人おさとファームの早期の経営安定に取り組めます。併せて重点活動では、集落営農等の経営の高度化を支援し、法人化に向けた取組を支援する計画としています。 ・令和2年11月以降月2回、毎週の役員会に同席、さらに代表理事を訪問し、各種問題や今後の計画について聞き取りを行い課題整理を行って参りました。R3年度のプロジェクトに設定することでさらに充実した支援を行って参ります。 ・プロジェクト課題に設定することで、プロジェクトチーム員により経営、技術両面を支援して参ります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の担い手の確保は今後益々深刻になる。その中で集落営農等の法人化も将来的な地域農業そして農地を継承していく手段（担い手）として重要である。経営内容や構成員数、作物等は組織によりそれぞれ違いはあるが、先ず経営を安定させることが、喫緊の課題であると思う。将来の地域農業の継続のためにも、大事な課題であることから、JAとしても連携しながら取組んでいきたいと思う。 ・来年度も一層の普及指導をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手となる認定農業者の経営計画策定を積極的に支援し、所得確保、拡大を支援しております。集落営農組織に対しても従前のアンケート調査や地域の実情等の情報を市町、JAと共有し、将来の営農展開を提案しております。経営安定に向けて、収益確保のための技術指導を行うとともに、転作作物の選定や複合部門等を見通した経営計画策定を支援し、営農形態が変わっても所得向上に結びつく、計画的な経営を提案します。このため関係機関との連携、情報共有は大変重要と考えております。
<p>普及計画や普及活動等についてのご意見・ご要望</p>	<p>ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有意義な活動をしていただけていると思う。以前にも取り組みにあったように思うが、遊休施設の活用や紹介等も検討いただきたい（園芸施設等は新規に始めたり増やすのは無理がある。補助等が受けられる組織は偏っている。） ・地域農業の発展のため、引き続き、積極的なプロジェクト展開を期待する。 ・計画設定前に国と県の方向だけでなく、地域の市町にも課題を聞くことで、一体的に振興効果が上がると思う。 ・おかげさまで、「金のいぶき」の作付面積も年々増加してきている。「産金の地わくや」をPRするためにもブランド化が図れるよう、今後も御指導・御支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢、担い手不足等で営農を終える経営体が年に数件あります。また、開田地帯など耕作不利地において遊休化する農地も増加しております。JAの部会等や関係機関と連携して価値ある施設の有効活用を地域の担い手や部会等に積極的に働きかけます。遊休農地においても地権者や地域を巻き込み有効活用を探りたいと考えております。 ・R3年度の農事組合法人おさとファームのプロジェクト課題の展開により、波及効果も期待しながら地域農業の発展を目指します。 ・今後も、関係機関との情報交換、共有を図りながら、課題の設定を進めてまいります。 ・令和元年度までプロジェクト課題として「金のいぶき」を取り上げ、安定生産技術の普及定着、生産性及び品質向上を支援してまいりました。令和2年度からは重点活動と位置づけ生産技術向上支援に加え、「金のいぶき」による地域活性化に関する取組を支援しました。「金のいぶき」のPRやブランド化に安心して取り組めるよう、令和3年度も引き続き、安定生産技術の普及・定着に向けて支援を継続します。

